

# きりばたけ

# 通信

## 81号

令和8年5月号（年4回）  
札幌司法書士会 会長 下村尚也  
編集担当責任者 番井菊世  
<https://sapporo-shiho.or.jp/>  
〒060-0051  
札幌市中央区南1条東1丁目3番地  
パークイースト札幌2階  
電話 011-281-3505  
FAX 011-261-0115



札幌司法書士会で  
多職種で考える地域の自殺予防  
—ゲートキーパー研修を開催しました—

※ゲートキーパーとは、悩んでいる人に、  
気づき→声をかけ→話を聴き→必要な支援につなぎ→見守る人  
のことをいいます。



札幌司法書士会では、令和8年2月6日、「ゲートキーパー研修 ～多職種連携による地域の自殺予防～」を開催しました。北海道いのちの電話 杉本明事務局長を講師にお招きし、「傾聴」やゲートキーパーとしての基本的な関わり方について学びました。また、司法書士、地域包括支援センター、生活困窮者支援、教育、福祉、医療、居住支援など、さまざまな分野の支援者が参加し、多職種混成グループによる事例検討を行いました。

司法書士って、登記とか相続のイメージが強いけど、自殺予防とも関係があるの？



相続、成年後見、債務整理などの相談では、深い悩みを抱えた方とお会いすることがあるよ。心の不調も重なって、追い詰められている方もいる。研修では事例をみんなで検討してみたよ。



司法書士 安東

## ！検討事案！

地域包括支援センターから司法書士に対し、「高齢女性 A さんについて、成年後見制度の利用も含め、一緒に話を聞いてほしい」との相談があった。

### 家族構成



A さん：76 歳女性。年金受給者。物忘れが目立ち、認知症の疑いがある。



B さん：A さんの娘。45 歳。現在無職。家庭訪問時に不在がち。



C さん：B さんの長女。18 歳。高校 3 年生。



D さん：B さんの長男。14 歳。中学 2 年生。

## 現在把握されている状況

- ・以前は A さんが家事や家計管理をしていたが、1 年ほど前から難しくなっている。
- ・現在は、高校生の C さんが家事の多くを担っている。
- ・収入は A さんの年金のみ。家賃や光熱費の滞納があり、電気が止まったこともある。
- ・A さんは「死んだ方がいいのではないかと口にすることがある。
- ・C さんも「何もかもやめてしまいたい」「消えてしまいたい」と話すことがある。

この事例でも、成年後見制度の利用だけでは家庭全体の問題が解決するわけではないよ。様々な支援者が関わりながら、本人や家族の状況を丁寧に見ていく必要がある。



いろんな問題を抱えて、しんどくなっちゃうんだね。そういうときは、医療につながることも必要だね。

そうだね。ただ、医療だけでなく、経済的困窮、家族関係、住まいの不安など、生活全体への支援が必要なこともあるよ。多職種との連携が必要なんだ。今回の仮定の事例だけでも、いろんな角度からの意見がでて、その必要性を強く感じたよ。



でも、連携って、相手のことが分かかっていないと難しそう…。

そうなんだよ。「どこに相談したらいいか分からない」「つないだ後が見えない」と、支援する側も動けないよ。



どうしたらいいのかな。

顔の見える関係を構築すること、だよ。今回の研修でも、「気軽に相談できる場が必要」「定期的な多職種合同研修があるとよい」という声があったよ。



司法書士は、どんな役割ができそうかな？

相談の入口で生活全体の困りごとに気づき、必要な支援につなぐこと。まだ十分にできているとは言えないけれど、他職種の方々と学びながら、地域の中でつながりを作っていきたいと考えているよ。



「きりばたけ」のバックナンバーはここで読めます 72 号では「いのちの電話」の活動についてもご紹介しています

